

主な審議検討課題は、学生の厚生補導・生活指導に関する事項、課外活動・自治活動に関する事項、賞罰に関する事項、災害・事故等に関する事項であるが、学内・外の奨学制度（特待生を除く）の選考部門としての役割も担っている。

審議検討にあたっては、教育的配慮を第一の判断基準としているが、学生生活の多様化と留学生数の増加に伴い、前例のない事柄（特に災害・事故）や留学生に係わる事柄を審議検討する機会が多くなり、より慎重な判断を要するようになってきている。

5 学生生活実態調査

平成8年度に「学生生活実態調査」を実施した。学生に対する同様の調査としては、開学以来2回目の調査であり、調査結果については、「平成8年度学生生活実態調査報告書」としてまとめ、平成9年11月に全教職員に配付した。

なお、調査の概要等は以下のとおりである。

（1）調査の概要

- a 実施期間：平成9年1月16日～2月15日
- b 実施対象：経営情報学部生全員
 - ・在籍者数 2,080名（平成9年1月1日現在）
 - ・配布総数 約1,900部
 - ・回収者数 718名
 - ・回収率 34.5%
- c 調査項目：
 - ① 基礎データ 6項目（性別、学科、入学年度等）
 - ② 入学について 4項目（受験動機、志望学科等）
 - ③ 学外での学生生活について 13項目（通学方法、アルバイト等）
 - ④ 学内での学生生活について 12項目（課外活動、悩み等）
 - ⑤ 学生生活での意識について 13項目（大学観、生きがい等）
 - ⑥ 今後の予定について 2項目（卒業後の進路等）
 - ⑦ 自由意見

（2）まとめ（学生の全体像）

情報大学の学生がどのような学生生活を送り、大学に対してどのような意識を持ち、どのような将来を考えているのかなど、アンケートの集計結果から垣間見える情報大生像についてまとめておきたい。

情報大生は、基本的に四年制大学への進学を目指して本学を受験してきているが、本学への志望順位があまり高くなかったものが入学しているケースもみられる。

学生生活については、自宅から通学するものが多く、比較的時間に余裕あり、その時間を趣味やアルバイト等に費やしている学生が多く見受けられる。しかし、勉学や教養を養うといった面では、比較的受け入れ易い本は読むが新聞や教養書などはあまり読んでいないというのが実状のようである。こうした傾向は、現在の大学生一般にも当てはまるものであり、情報大生も御多分にもれずといったところであろうか。

学内においては、比較的講義には出席しているが、課外活動などへの参加はあまり多くない。しかし、学内の友人との人間関係については、悩み事の相談相手としても考えているなど、良好な人間関係を築いている学生が多い。

大学に対する意識は、自由な活動と技術の習得を重視しているが、本学の講義等に対する満足度はあまり高くない。これは、入学時に抱いていた本学のイメージと現実とのギャップを感じる学生や教員との深い交流（良好な人間関係）を求める学生が多いといったことに要因があるようである。

最後に将来の希望については、資格を取得するなど将来を目指して活動する学生がいる一方で、大学生活を謳歌したい学生も多い。このように比較的揺れている若い情報大生像が見出せるのである。

———平成8年度学生生活実態調査報告書「まとめ（学生の全体像）」から転載。